

令和8年度
若者のまちづくり交流拠点づくり
実施報告書

仙台市市民協働推進課

目次

1. 概要	1
(1) 経緯	1
(2) 実施概要	1
2. ワークショップ	3
(1) 検討した項目	3
(2) 意見やアイデア(発言要旨・付箋書き起こし)	3
(3) 意見のまとめと分析	6
3. 若者まちづくり交流拠点体験デー	7
(1) プログラム	7
(2) 理想の交流拠点を考えるワークショップ	9
4. アンケート等の結果(概要)	11
(1) 参加者へのアンケート	11
(2) 体験デー 企画・運営参加者からの意見	11
5. まとめ	12
6. 参考資料	13
(1) ワークショップ参加者へのアンケート	13
(2) 体験デー参加者へのアンケート	19
(3) 若者まちづくり交流拠点体験デー 企画・運営参加者からの意見 ..	27

1. 概要

(1) 経緯

令和7年度、次期「仙台市協働まちづくり推進プラン」の策定に向け、次の世代のまちづくりの担い手である若者から意見を聞くワークショップ形式でのイベント「せんだい若者フォーラム 2025」において、若者が集まり交流できる場の創出や、活動へのフィードバックを行う人や場所を求める声が挙がった。

このことを契機に、令和8年度、まちづくりに関心のある若者が気軽に集い交流することができる交流拠点のあり方について2回のワークショップを通じて検討を行い、その意見を反映させた「体験デー」を開催するに至ったもの。

(2) 実施概要

①実施体制

■主催	仙台市市民協働推進課
■運営協力	仙台市市民活動サポートセンター
■ワークショップにおけるファシリテーター	一般社団法人 ONE TOHOKU HUB 代表理事／CEO 手島 慧 氏

②第1回ワークショップ

■日時	令和8年6月26日(金)19:00～21:00
■会場	市民活動サポートセンター 研修室 5
■参加者	8名（学生3名・社会人5名）※
■主な内容	2グループに分かれて2つのワークを実施

③第2回ワークショップ

■日時	令和8年7月10日(金)19:00～21:00
■会場	市民活動サポートセンター 研修室 5
■参加者	6名（学生1名・社会人5名）※
■主な内容	第1回ワークショップの議論を踏まえたワークを実施

※公募によりワークショップの参加者を募集し9人から応募あり。

④若者まちづくり交流拠点体験デー

■日時	令和8年8月23日(日)13:00~17:30 (12:30 開場)
■会場	市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール
■来場者	26 名 (学生 11 名、社会人 15 名)
■ワークショップ参加者	8 名 (学生 5 名、社会人 3 名)
■トークセッション登壇者	17 名 (学生 10 名、社会人 6 名、その他 1 名)
■運営参加	6 名 (学生 3 名、社会人 3 名) ※第 1 回・第 2 回ワークショップ参加者のうち、有志 4 名は体験デー当日の運営にも参加
■主な内容	体験スペースの設置、コミュニケーターとの交流、トークセッション、出店・販売、理想の交流拠点を考えるワークショップ



▲体験デーのポスター。企画・運営に参加した若手社会人が作成。

2. ワークショップ

交流拠点のあり方について若者からの意見を聞くワークショップを2回開催し、コンセプトや機能について検討を行った。

(1) 検討した項目

- 理想の拠点のコンセプト
- 時間帯・訪問頻度のイメージ
- 拠点の具体的機能の検討
- 既存施設との役割分担・利用者のペルソナ検討

(2) 意見やアイデア(発言要旨・付箋書き起こし)

①第1回ワークショップ

ワーク(a)「理想の拠点のコンセプト」

【雰囲気】

常連になる居酒屋、次につながる関係がつかれる、受動的出会いや受動的コミュニティ、約束がなくても会える場所、新規が1人でも入りやすい、気軽に話せる知り合いがいる、自分が「ホスト側」である意識、Twitter内コミュニティ、色んな若者と様々な話題で絡める、入っていい「OPENみ」。明るい、入りやすい、中で何をやっているか見える、仙台駅から近い、顔見知りができやすい場、見通しがいい、気軽に相談できる人がいつもいる(ラフに、ハードでも、小さなことでも)

【空間・設備】

1F グランドフロア、ガラス張り、中がどんなところか外からわかる、日が差す、畳の部屋、でかい和室、いろり、緑がある自然系、火・水、日当たりが良い、大きいガラス窓、適度なBGM、フリードリンクバー、Free Wi-Fi、充電器貸してくれる、ホワイトボード、工房(技術室・美術室的)、共同作業できる作業台(工作・DIYスペース)

【用途・ゾーニング】

シームレスな壁のないゾーニング、トークスペースと個人・集中スペース分かれている、集中できる所は欲しい、自由すぎても使いづらい、誰が何をしているか気にならない、教室(中学校・高校の感じ)、ご飯食べる・リラックスする・休憩するついでに

【設置場所のイメージ】

錦町公園、榴岡公園、HUB、コンビニ、青葉山コモンズ、カフェ 1F、JR East Gate ビル 1 階、Plugin ラボ、アーケードに存在してほしい、三越のとなり、飲食店・一番町の近く、広瀬通、EDEN 跡地、五橋（学院生）、川内（授業後）、長町モールついでに、JR East Gate ビル 1 階、青葉山コモンズ、enspace、定禅寺通り、ケヤキ並木がある場所、青葉通、広瀬通、アーケード、広い通り、旧さくら野正面の空地、ペデストリアンデッキ、地下、2 階以上、裏（隠れ家感）、生活動線上、ついでに寄れる場所

【情報・イベント】

定期的にイベントが行われる、参加の口実ができる（セミナー、プロジェクト）、非日常がつくりやすい、サークル・同好会のような小さなコミュニティづくり、自分の特技・趣味を披露できる場（作品展示・ギター演奏）、自分のアイデアが反映される場（家具や用途を来訪者が決められる）、自分ごとを持てる（1 人でいてもいい、家でもできる好きなことを持ち込める）

【仙台らしさ】

ケヤキ、広瀬、まちづくり事例のパネル展示、美味しいお店・好きな場所を共有できる地図、他都市事例（ミライエ長岡など）

ワーク(b)「時間帯・訪問頻度のイメージ」

【時間帯】

平日会社終わりに集まる（22 時まで）、昼休み（ただし短い）、授業後、平日は作戦会議・休日は外へ、月イチ（イベント時）、金曜は夜まで、18 時～22 時、10:00～15:00、学校・仕事終わりに、会社の昼休み、土日

【訪問頻度】

毎日行く場所というより、時々行く場所、月 1 回少し気合を入れていく場所

【既存施設の課題認識】

中が見えづらい（サポセン）、窓口にいる人がいる、奥まっている、入っていいのかわからない

②第2回ワークショップ

ワーク(a)「拠点の具体的機能の検討」

【コミュニケーション・交流を加速させる仕掛け】

利用者は名札をつける、かんたんな自己紹介ボード、コンテンツ別に仲間を募集できる掲示板、おもしろい人（相談員）が常にいる、常に誰かいるけど干渉されない距離感、ハブになる人、リファラル（紹介）、学校以外の関わり、なんとなくの認知度（名前を知っているなど）、誰を呼びたいのか

【具体的機能・設備】

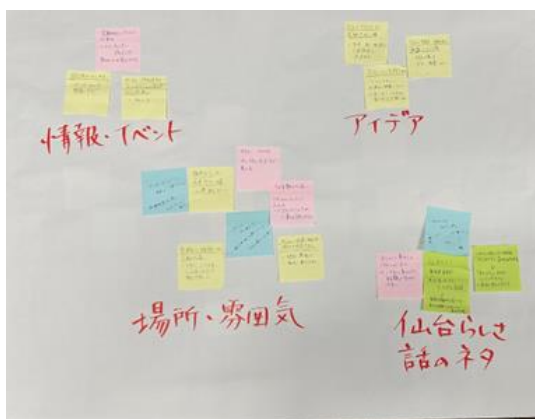
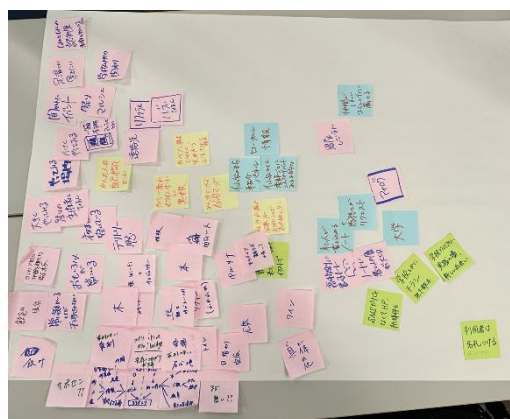
飲食の提供、日替わり定食、ワイン、バーカウンター、足湯を置きたい、ふかふかソファ、きれいなトイレ、木（自然素材）の質感、強Wi-Fi+プロジェクター、1箱本棚（マルシェ）、本、テリトリー感、夜まで空いている

【情報発信・広報】

天井からぶら下げて掲示、壁一面がホワイトボード or 黒板、仙台のまち紹介パネル、みんなでつくる仙台マップ、来た人が書き込めるノート（感想・リクエスト）、みんなが撮った写真がスライドショーで流れるモニター、SNS だけでなく HP・紙媒体（地下鉄・学校へのチラシ配布）

ワーク(b)「既存施設との役割分担・利用者のペルソナ検討」

「仙台まちづくり若者ラボ」に参加する以前の層が利用者のペルソナではないか、まちづくりに興味関心のある層のニーズは「人・金・情報・場所」といった具体的リソース、新拠点は（まちづくり）未関心層（潜在層）の入り口、ニーズは「お洒落な空間」「ZINE」「カフェ」「第3の居場所」「教育」、未関心層の「入り口」が現在の仙台にはまだ無いことが課題



（３）意見のまとめと分析

ハード面の要素として、気軽に立ち寄れる入りやすい外観や、何かのついでに寄れる立地であること、目的がなくても居たくなる雰囲気であることが求められた。開館時間としては、主に学校や仕事の後の時間を望む意見が出た。

また、他の若者とつながれる、コミュニケーターのように頼れる相談相手がいることや、「コンテンツ別の仲間募集掲示板」等誰かとつながれる仕組み等が機能として求められたほか、「定期的にイベントがある」「まちづくり参加のきっかけとなるセミナー」等まちづくりに関心がない層の入り口になる要素が必要との意見も挙げられた。

以上を踏まえて、若者まちづくり交流拠点体験デーでは、会場に居合わせた人同士の交流を促進する仕掛けや、コミュニケーターによる参加、参加の呼び水としてトークセッションを行うなど、ワークショップでの意見をイベントの内容に反映させた。



3. 若者まちづくり交流拠点体験デー

若者が気軽に集まり交流できる拠点のあり方について2. ワークショップで検討した内容をふまえ開催するもの。コミュニケーターとの交流や、来場のきっかけとなる「トークセッション」等をプログラムに組み込んだ。

(1) プログラム

①体験スペース

交流拠点をイメージした空間を設計。勉強や仕事、読書等のほか、来場者同士の交流やまちづくりに関する情報交換を行うなど自由に過ごすことができる場として運営した。また、4（2）において、「直接人に話しかけるのが苦手なでも他者と繋がれるツール」が必要といった意見が出たこと等を踏まえ、会話のきっかけを作る仕掛けも実施した。会場に居合わせた人同士が交流できるよう、会話のきっかけを作る仕掛けを行った結果、来場者同士の交流が促進された。



②コミュニケーターとの交流

来場者同士のつながりづくりをサポートするためコミュニケーターとの交流の時間を設けた。当日は、以下の2名が体験スペース内を巡回しながら来場者と交流した。

時間	コミュニケーター
15:00～15:30	市民活動サポートセンター センター長 佐藤 司 氏
15:30～16:00	一般社団法人 ONE TOHOKU HUB 代表理事／CEO 手島 慧 氏



③トークセッション

4(2)で挙げられた、「単発のイベントを定期的を開催することにより、来訪のきっかけがある」といった意見等を踏まえ体験デーへの来訪の呼び水として実施。仙台で様々な活動に取り組む若者たちが、地域との関わり方や挑戦のきっかけ、今後取り組みたいことなどについてトークセッション形式で発表した。

時間	テーマ	登壇者
13:00～13:25	仙台市というまちをどうつくるか	市民協働推進課長 千葉恵子 / 池ノ上正樹 / 浅野圭亮
13:30～13:55	食べものが繋ぐ縁	菅原理史 / 小澤悠河
14:00～14:25	まず、自分の代名詞をつくる	高森琉碧 / 中鉢航太 / 久保カノン / 田口乃亜
14:30～14:55	「就職」ってだめですか？	神尾真大郎 / 梅内智穂子 / 佐藤優空 / 石川翔太郎
15:00～15:25	ローカルにどっぷり浸かる幸せ不幸せ	木口真唯子 / 佐々木葉月 / 黒須大輝
15:30～15:55	「顔を出す先になにを描くか	高橋由有 / 奈良ほのか / 高野健太



④出店・販売

トークセッションのテーマ「食べものが繋ぐ縁」の登壇者である菅原理史氏が飲食物の販売を実施した。



(2) 理想の交流拠点を考えるワークショップ

■時間	16:00～17:30
■参加者	9名（学生6名、社会人3名）
■主な内容	体験デーの来場者のうち希望者が参加。第1回・第2回ワークショップの議論を踏まえながら、交流拠点における情報発信機能等についてアイデアを出し合った。

意見やアイデア(発言要旨・付箋書き起こし)

発言要旨

ワーク(a)「交流拠点に必要な情報の検討」

- 悩みや課題を解決できる情報
- SNS等で情報を知り興味を持った人が拠点へ来る流れが理想
- 現地に行くことでしか得られない情報や出会いも必要
- 情報発信は大学や公的な機関が関わる方が参加しやすい
- 防災や地域で役立つ知識なども拠点のコンテンツとして有用
- 地域生活の中で役立つ情報があれば利用者にとって価値が高い

ワーク(b)「交流拠点に設置する掲示板についての検討」

- 活動している団体や人材・場所等を地図上で可視化することも有効。交流拠点とオンラインの双方で閲覧できると良い。
- 仲間募集や活動紹介の仕組みは必要だが、情報だけでなく人とのつながりを生み出す仕組みも重要ではないか。

その他意見等

- 海外ではカフェなどで知らない人同士が自然に会話する文化がある。日本にも「話してよい場」が必要ではないか。
- テーマを決めて集まるだけでなく、偶然居合わせた人同士の交流から新しい発想が生まれる。
- コロナ禍で近所の人との雑談が支えになった経験がある。近所の人に会いに行くような感覚で利用できる場が望ましい。
- 交流拠点を大学の授業やカリキュラムに組み込めると良い。

付箋書き起こし

【交流拠点に来る前の情報】

SNS での情報発信、広報誌（紙とデジタルの両方）、活動案のインタビュー（初めの一步）、時間・場所等を選ばない、対面の仲間探しをしたい

【お悩み解決】

自分オリジナルのやりたい事を引き出してくれる、人に話して検索では得られない情報を知りたい、ChatGPT の安心版、悩みの解決ができればいいかも、面白い人がいる！、新鮮さ（興味を引く）

【日常化させる】

大学を介したほうがいいと思う、公の機関など信頼性のある機関を介したほうがいいかも、アクセス問題（When? What?）、地域の交流拠点となる（公共交通機関で行ければ…）

【理想の掲示板・情報の可視化】

収束、格付け、やりたいこと掲示板、防災・減災について知りたい、みんなの参考図書、会場の詳細（地図は文字を用いて）、理想の仙台展、今あるもの+ α 、仙台 MAP（活動、不便なところ、好きなところ、プレイヤー募集）、穴場なスポット、きれいな散歩コース、違う町や国のいいところ

【交流拠点との日常の接点】

普段の日常発信、活動している、リアル、近所の人に会いに行くような感覚、できる事はなにか、そこで何ができるのか？

【その他】

バーチャル広場、秘匿性



4. アンケート等の結果（概要）

（１）参加者へのアンケート

①上記２．ワークショップ及び３．若者まちづくり交流拠点体験デーの参加者に対するアンケート（回答数：23名）

- 思わず立ち寄りたくなる拠点の条件（複数回答）について、16人が「外から中の様子が見えて入りやすい」を挙げたほか、15人が「特定の目的がなくても、誰かがいて話ができる」、14人が「学校や仕事の帰りについでに寄れる立地にある」を選ぶなど、気軽に訪れることができ、生活動線上の施設であることが望まれていることが分かった。
- ワorkshopへの参加を通じての気持ちの変化について、それぞれ10人（43.4%）が「仙台での活動にもっと関わりたくなった」、「自分たちで場所を作っていく手触り感に興味があった」と回答し、活動への参加を通じてまちづくりへの参画に意欲的になっていることが把握できた。
- 若者が自由に集まれる拠点の必要性について、計18人（78.2%）が「とても必要だと思う」「あった方がよい」と回答し、若者から交流拠点設置の需要が高いことが確認できた。

②上記３．若者まちづくり交流拠点体験デーの参加者に対するアンケート（回答数：15名）

- 体験デー参加者へ、良かった企画（複数回答）についてアンケートを行ったところ、12人が「トークセッション」、7人が「コミュニケーターとの交流」を選び、これらの施策の実施が有効であることが把握できた。

（２）体験デー 企画・運営参加者からの意見

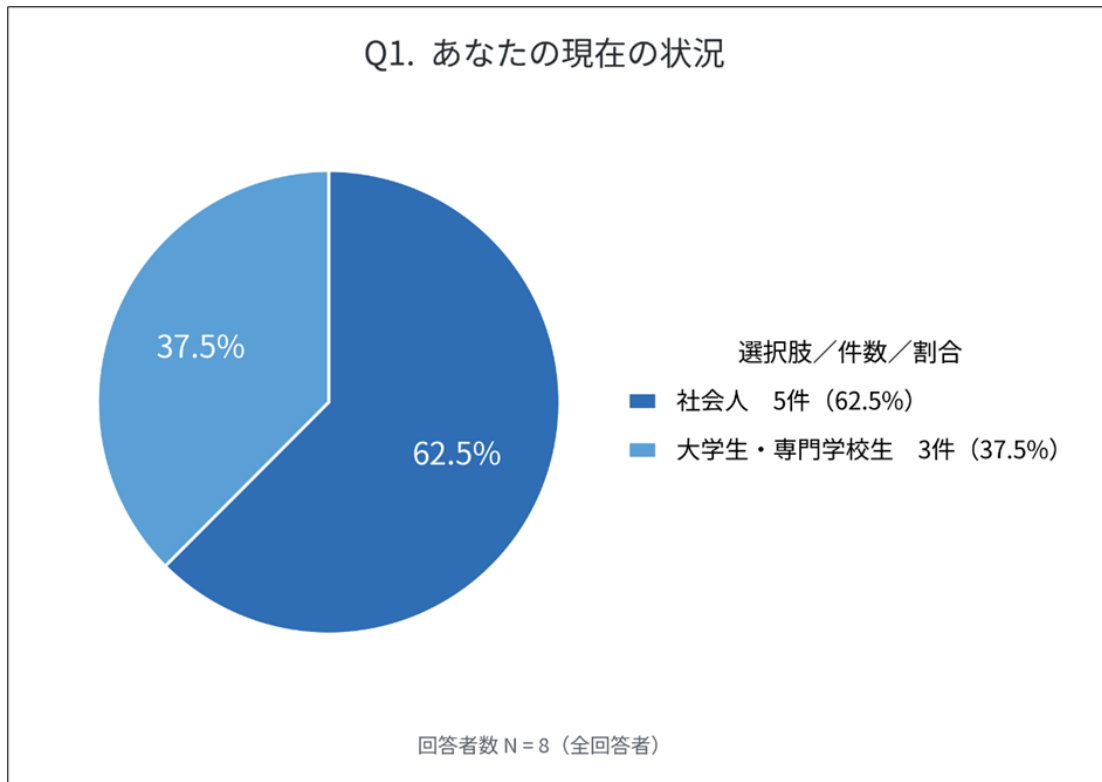
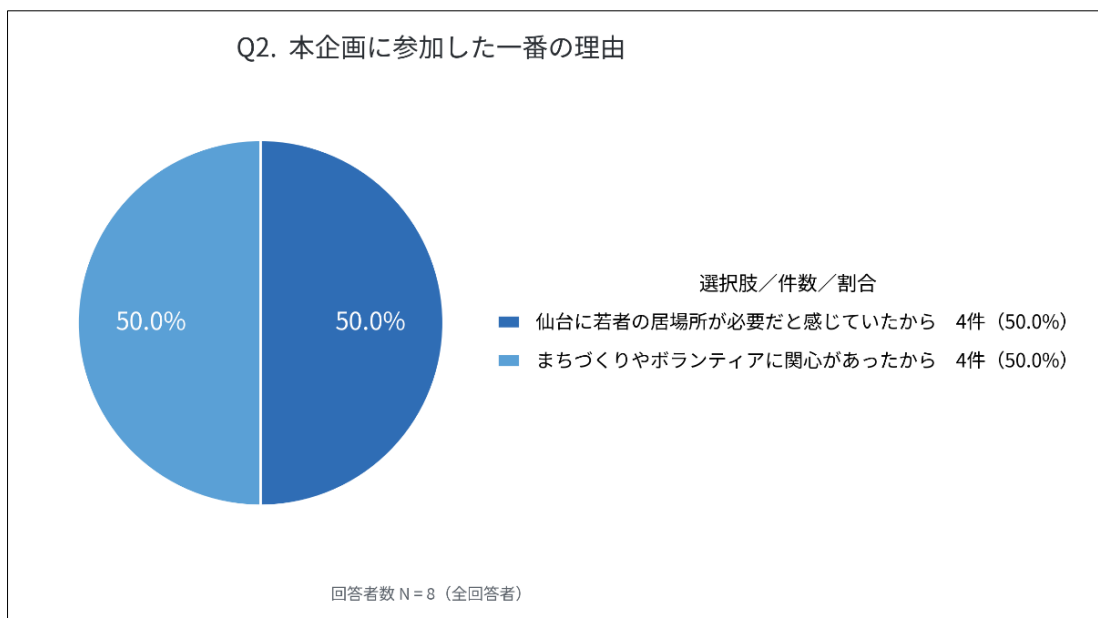
- 多様な属性・世代の参加者が集まり、就職、まちづくり、起業など様々なテーマで交流が生まれ、本イベントで出会った人同士で新たなつながりも生まれた。
- 広報先が知人中心になっていたため、初めてこうした場に来る層へのアプローチが弱く、イベント自体の魅力で集客するには工夫が必要。
- 就活や進路の相談など、まちづくり以外の情報交換も行われていた。交流拠点の価値は「まちづくりの情報収集だけでなく、生き方や人生の情報収集ができること」にもあったのではないかと。
- コミュニケーターが積極的に参加者同士をつないでおり、来場者とコミュニケーターとで進路相談や活動相談が行われていた。
- 「交流拠点」のあり方として、イベントで人を集め、その後常設利用につなげる流れを作り、利用者が「ここは自分の居場所である」と思えることが鍵になると考える。

5. まとめ

- 事業やアンケートを通じて、交流拠点に対する若者のニーズが高いことが改めて把握できたほか、一度事業に関わることでその後も継続的に関与することを希望する人が一定数いることが分かった。交流拠点を設ける際には、運営に若者の反応や意見を取り入れながらフレキシブルに運営方法を変えていくことを検討する。
- ワークショップでの意見聴取を通じて、新たな交流拠点には、気軽に訪問できる設えであることや、気軽に相談できる相手がいることなど、訪問のハードルが低い設計とする必要があることを再認識した。仙台市市民活動サポートセンター等の既存の施設ではこのニーズに対応することが難しいことが確認できたため、交流拠点の本格的な設置にあたっては、民間のテナント等を検討する必要がある。
- ワークショップでの議論から、コミュニケーターがいることで、来訪のハードルが下がり、活動層にとっては訪問の目的にもなることが分かった。体験デーにおいても、その効果が検証されたため、拠点の設置にあたっても配置を検討する。
- 体験デーにおけるトークセッションは評価が高く、来場者にとってイベント来訪目的になることが確認できた。交流拠点設置に際しては、定期的に同様のイベントを設けることを検討する。

6. 参考資料

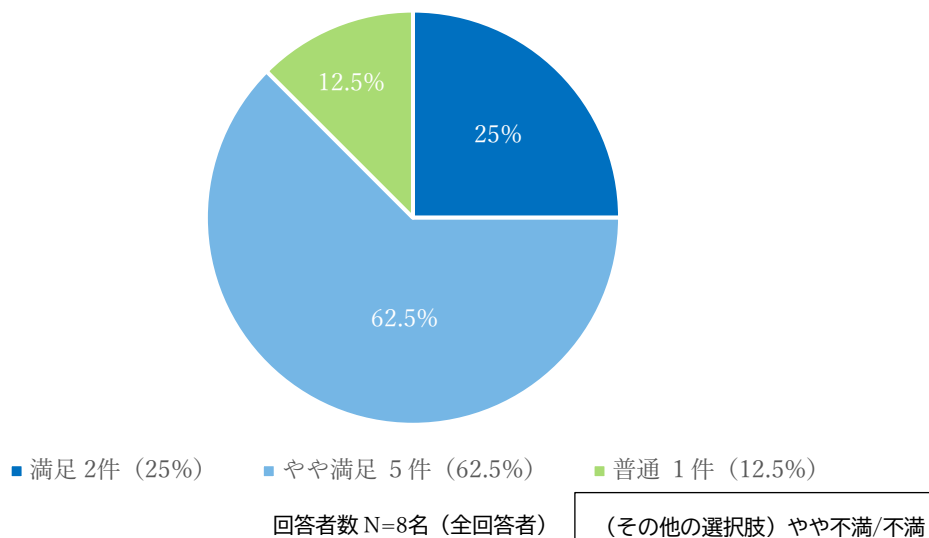
(1) ワークショップ参加者へのアンケート



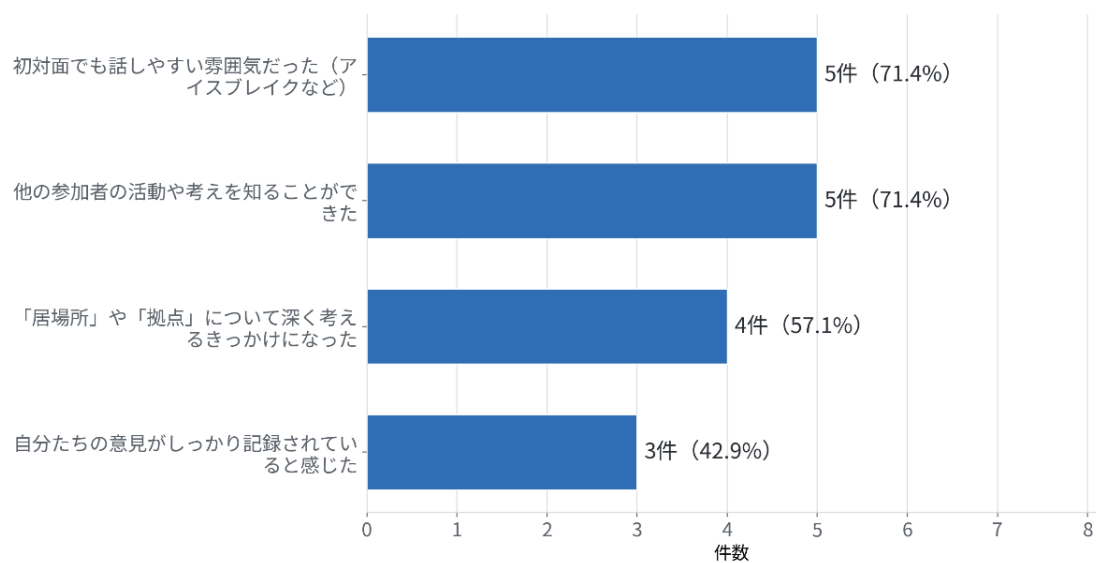
(その他の選択肢)

- ・ 同じ世代の仲間や新しいつながりが欲しかったから
- ・ 自分のアイデアが形になることに興味があったから

Q3. ワークショップの満足度

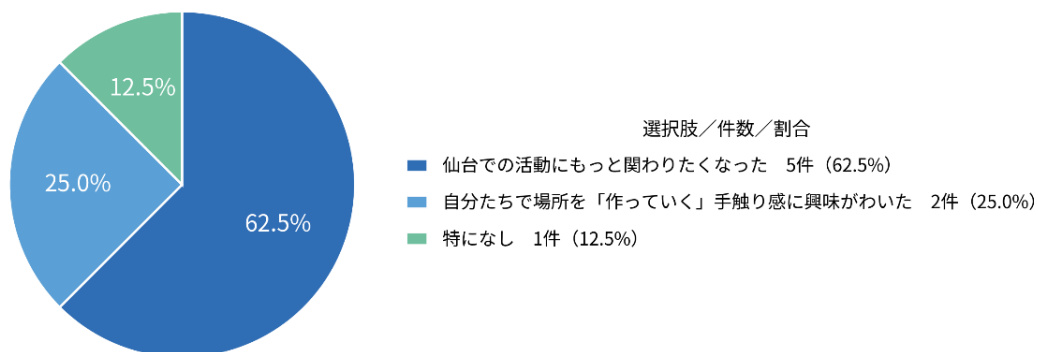


Q4. 特に良かった点 (複数回答)



Q3で「満足」「やや満足」と回答した方 (対象7名) / 複数回答のため合計は100%を超えます

Q5. 参加を通じた気持ちの変化

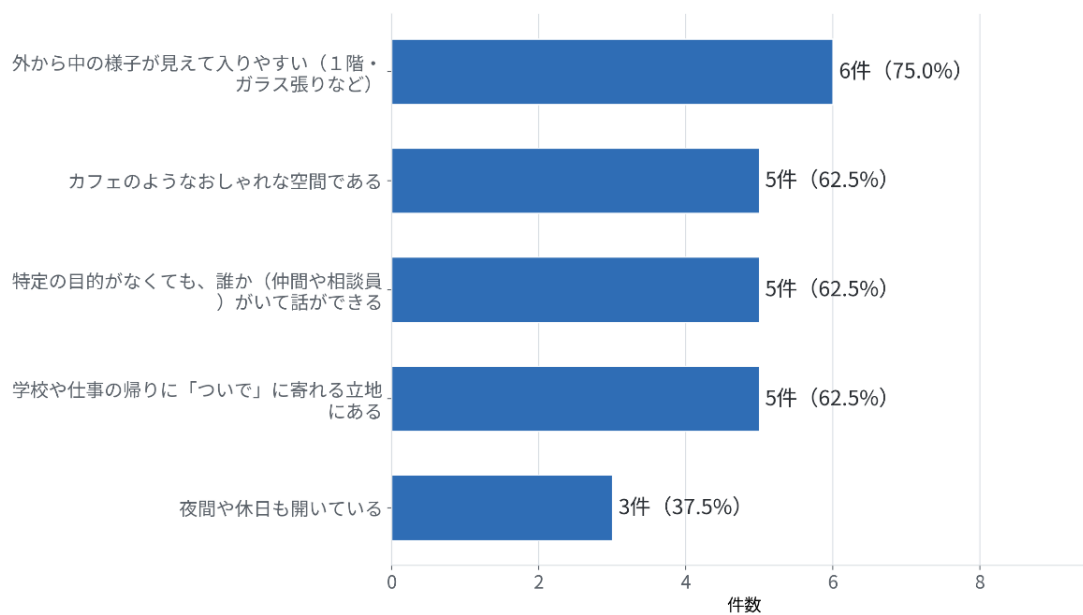


回答者数 N = 8 (全回答者)

(その他の選択肢)

- ・まちづくり活動への不安が少し解消された

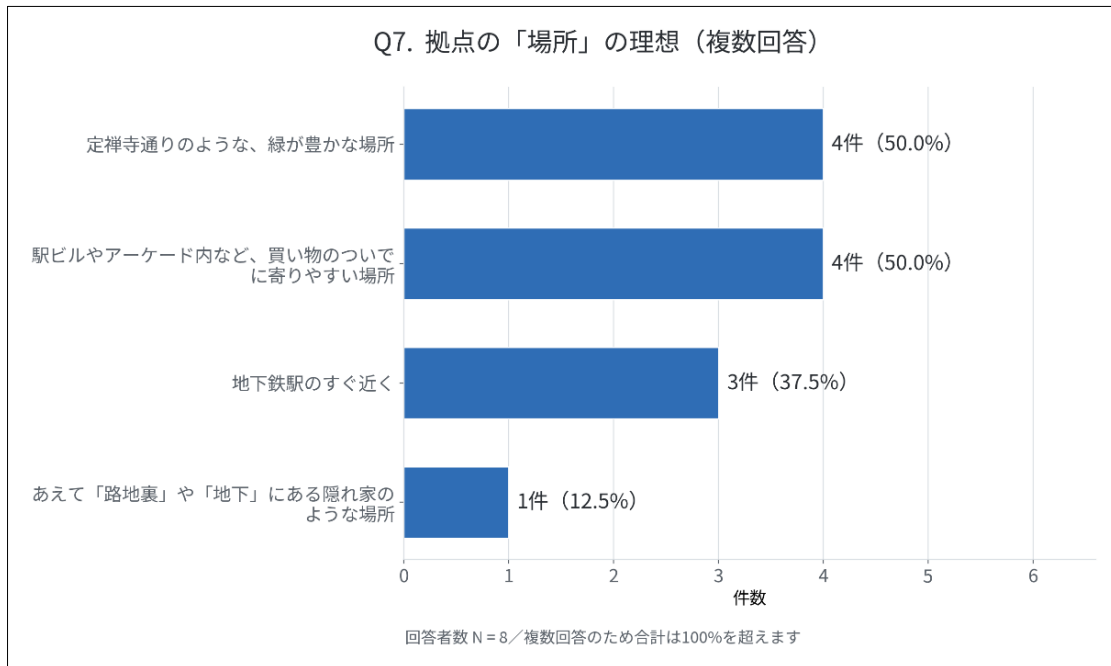
Q6. 思わず立ち寄りたくなる拠点の条件 (最大3つ)



回答者数 N = 8 / 複数回答のため合計は100%を超えます

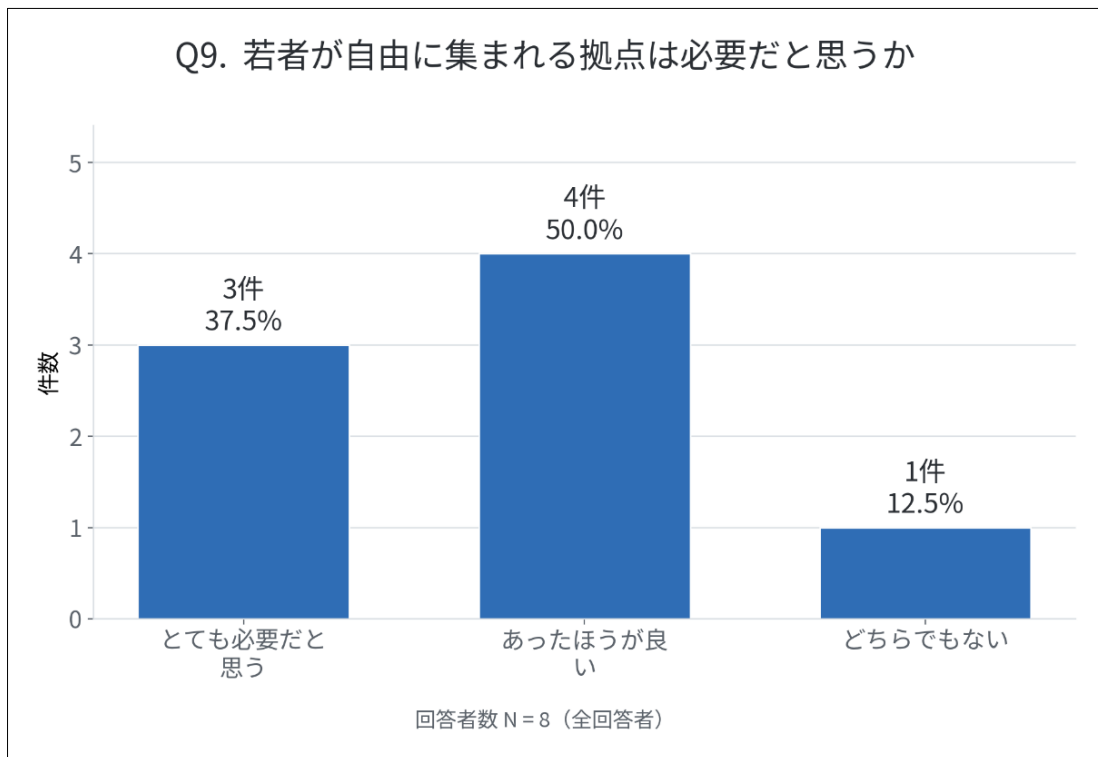
(その他の選択肢)

- ・DIY や工作ができる工房がある



Q8. 新しい拠点ができたら、どんな過ごし方をしたいか（記述）

- ・ 立ち寄った人に、もっとまちづくりなどに関心を持ってもらえるよう行動を促す運営スタッフとして。
- ・ ふらっと立ち寄って雑談をしたい。
- ・ ふらっと立ち寄って情報交換などをしたい。
- ・ 自分の活動やイベントに活用したい。
- ・ 2回のワークショップを通して、自分はまだまだまちづくり活動の関心層・初心者であり、既に活躍されている活動層の方たちとの間で日々の行動やマインドにギャップを感じる場面が多かったです。そのため、まず初めのうちは実際に活動されている方々のお話を聞いたり、普段の活動の様子を写真や動画で見てみたいです。その後、自分もアクターとして何か人や地域の役に立てる自信や意欲が湧いてきたら、団体のメンバーになったり、イベントの運営スタッフとして携われる機会を設けられればいいと思います。また、作品展示で自己表現という案は素敵だなと思いましたが、人に見せるような作品づくり等をしている人はあまりいないのではないかなと思ったため、その場でできる色塗り等のDIY体験や思いを記すノートのようなものがあると、その場にいた記録を残すことができているのではないかと考えました。
- ・ ふらっと立ち寄って様々なお話をしたいと思います。そして、将来その拠点の常連となったら、色々アドバイスできるようなポジションになりたいです。（老害になってしまうかもしれませんが）
- ・ 仙台の新たな発見をしたい。こんなものが仙台にあったんだ！（例:お店、イベント、市内の施設でできること）など、拠点に行けば発見（収穫）がある。はじめて仙台に来た人でも、ここに来れば仙台のことを知れる。定番情報でもコアな情報でも。
- ・ 定期的なイベントに参加し、顔見知りから友達や仲間を作りたい。一箱本屋や個展など小さな挑戦をしていきたい。



(その他の選択肢)

- ・ 不要だと思う

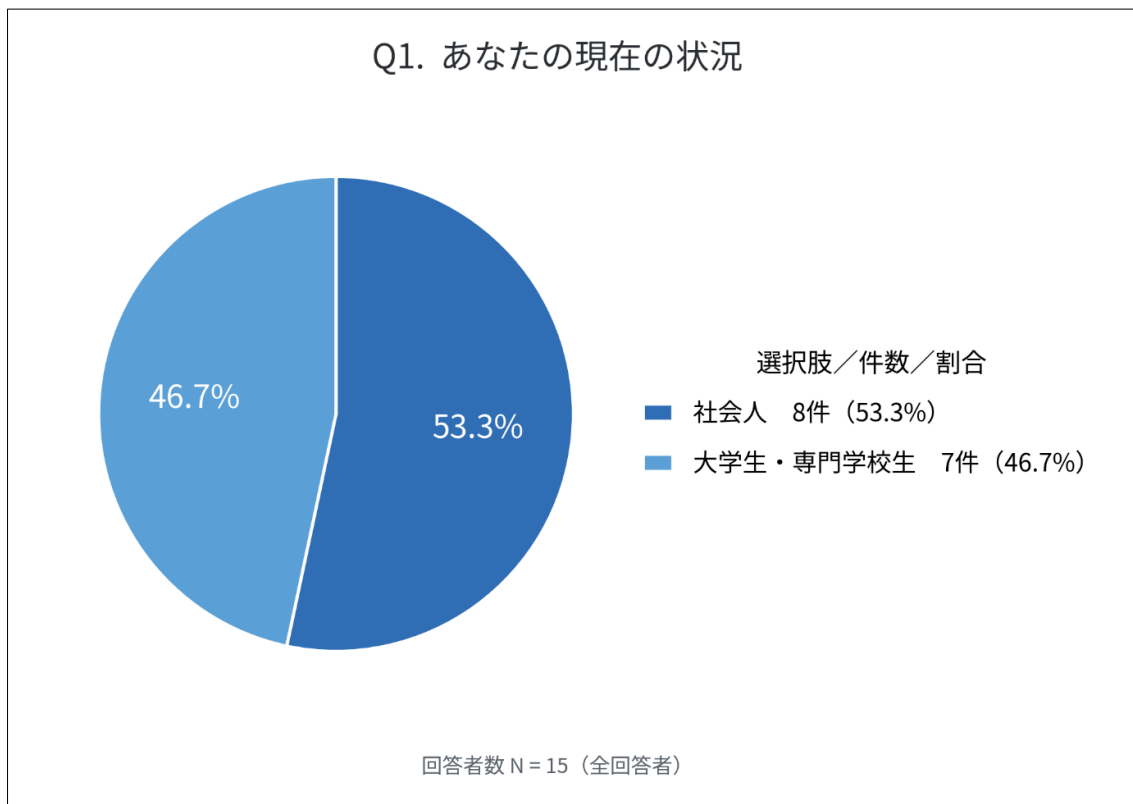
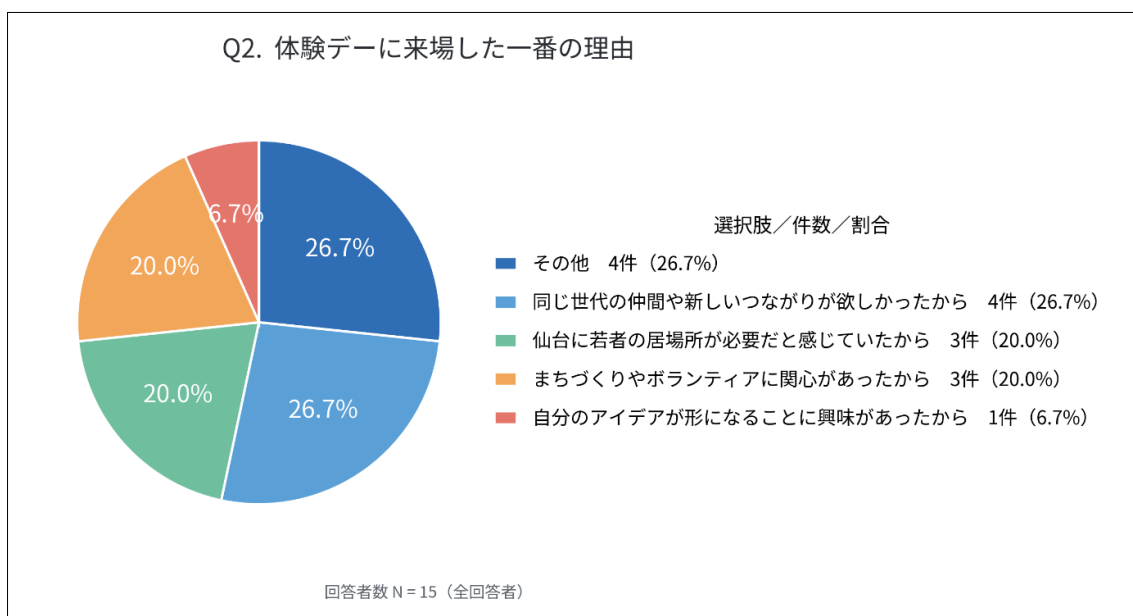
Q10. Q9 の理由 (記述)

- ・ きっかけになる場があれば、ことを起こしたり、まちづくりに興味を持つ若者が増えると思うから。
- ・ まちづくり関心層と活動層とで、拠点に求めることが変わってくるなと思いました。関心層の自分の立場だと、そのような拠点があっても、いきなり1人でふらっと立ち寄るのはハードルが高いなというのが正直なところです。また、皆さん日々の学校や仕事が忙しい中で何か用事や目的がないと行くことはないかなと思っているため、若者のうち、「学生」をターゲットとする場合、日々の学校での座学では得られない体験や出会い、ボランティア・市民活動についての学びができる場になるといいのではないかと思います。
- ・ 様々な夢や目標を持っている若者が交流できる拠点が少ないと思ったからです。特に、私は東北大生で、他大学の方やとの交流が本当に少ないと感じます。そこで、この施設を作ることで、様々な立場の人々の相互交流を通じて、若者たちが目標や夢を実現するための機会を得たり、仙台のまちづくりに役立ったりするのではないかと思います。
- ・ 自由に集まれる場所は意外とないから。学都仙台を謳っているくらいなので若者は多いはずなのにそれを活かしていないと感じる。せっかく東北各地、日本各地から若者が集まるような都市ではあるのでその人たちの声を活かしたら仙台が面白い街になると思う。
- ・ 何かやってみる決心が着くのは一人の時ではなく、一緒にいる誰かに背中を押された時だと思うから。

Q11. 仙台のまちづくりやこれからの拠点づくりに向けてのメッセージ

- ・ もっと勢力的に動くプレーヤーとそれをサポートする環境が絶対必要です。
- ・ 自分たち若者の力を発揮できるようにがんばります！
- ・ 一緒に頑張りましょう。
- ・ 僕もできる限り力になれるように頑張ります！
- ・ ●●さん（参加者）が仰っていたような開かれたイベントの1回目や、今回のようなワークショップ等を実施する場として拠点があると便利だなと思うものの、今ある市民活動サポートセンター（改めて考えると地下鉄駅からもバス停からも近くて、立地条件としてはこれ以上ないくらいいいなと思っています）等の施設でも十分なのではないかと思っています。例で見せていただいた和室や木造の雰囲気は凄く素敵でこういう場所があったら行ってみたいなと思いました。ただ、一から建築や改築するのは難しいと思うので、サポセンの一室にそのような空間があるといいのかなと思います。また、サポセンの入り口や1階が照明や装飾等でもう少し明るい雰囲気だと、新規の人も入りやすいのではないかなと感じました。私は日々人のつながりの希薄化を感じており、様々な人と関わりながら地域に貢献していく活動に興味はあったものの、自分にはまだ知識や経験、心構えが不足していきなりまちづくりのアクターになることは難しいということを痛感しました。しかし、地域の魅力や課題、人の温かさを知るきっかけとして若いうちからこのような活動に挑戦できる環境が整っているのは、地元仙台的な良いところだと知ることができました。関心のある学生はたくさんいると思うので、後は周知のさせ方次第なのかなと思います。社会人の方々の熱意に押されて一学生の自分がお役に立てた部分は少なかったと反省していますが、初めの一步としてこのような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！
- ・ この集まりに参加できたのは1回だけでしたが、それでもまちづくりを通して、多くの若者のみなさんと交流できたのは本当に嬉しかったです。
- ・ ちょっと興味あるかなって人を狙うのもよし、本気でやりたい人も狙うのもよし！な拠点だとうれしいです。
- ・ サポセンをどう若者の拠点にしていくのか、などのテーマでワークショップを行えば、もっと人が集まったり、議論が地に足ついたのかなと思います。

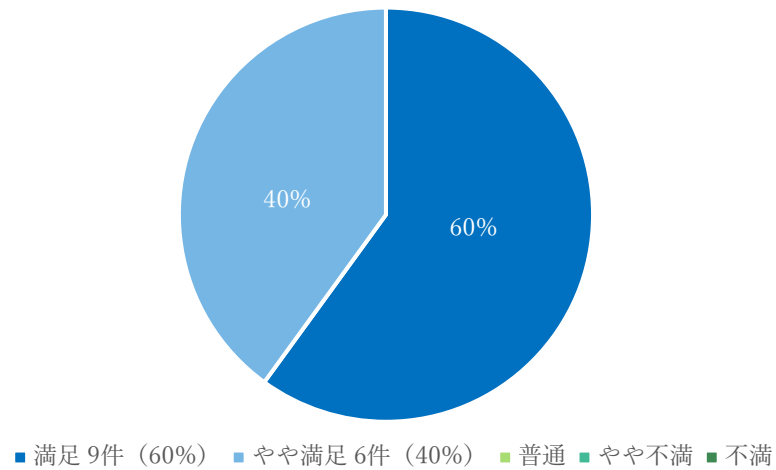
(2) 体験デー参加者へのアンケート



(その他の回答)

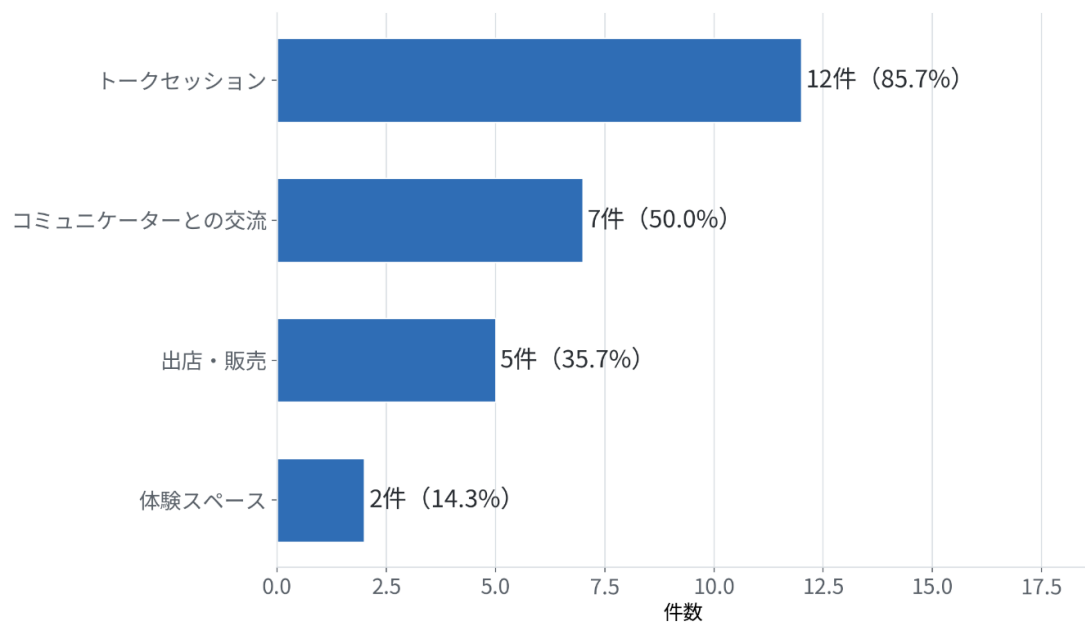
- ・登壇者 (3 件)
- ・まちづくりの交流拠点を考えるワークショップに参加しており、今回は体験デーの設計に携わっていたから (1 件)

Q3. ワークショップの満足度



回答者数 N=15 名 (全回答者)

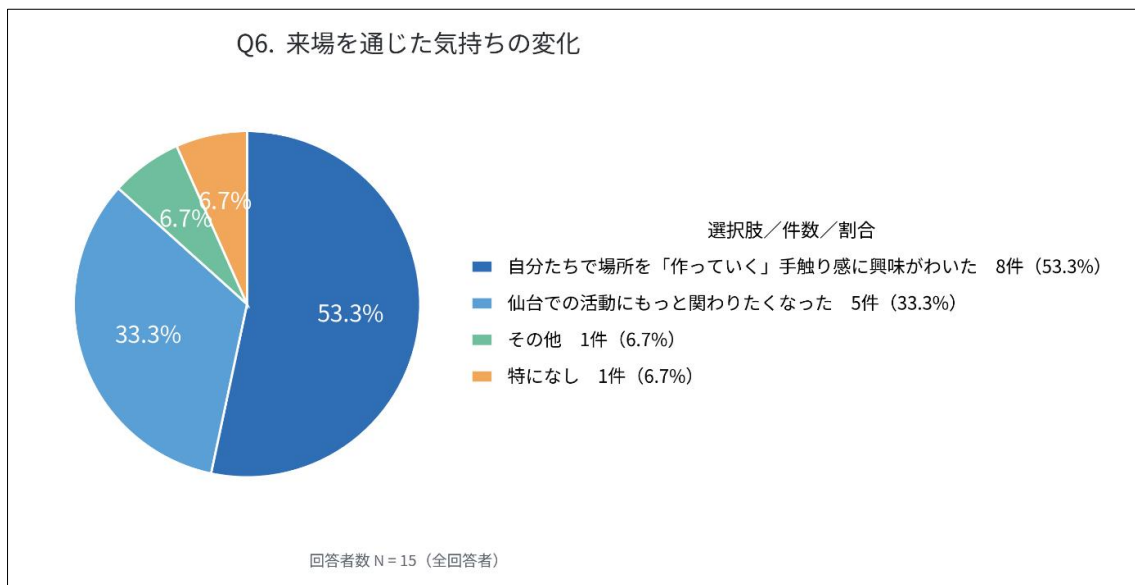
Q4. 体験デーで良かった企画 (複数回答)



回答者 14 名 (無回答1名を除く) / 複数回答のため合計は100%を超えます

Q5. Q4の理由（記述）

- ・ トーク中やそれ以外の時間でも参加者同士が気軽にコミュニケーションをとれていた
ので良かったなと思ったからです。
- ・ レモネードがうまさぎたのと、久々にトークセッションをしていた面々と会って話せ
たので楽しかったし刺激的だった。あのメンツが揃う回は稀有だと思う。
- ・ 各スピーカーの、関係者同士の繋がりのおかげをつくれた。
- ・ 仙台で活動し始めた若者と、これから何かしたい若者が、トークセッションや共通の
知人友人をきっかけに交流していたところがすごくよかった。交流拠点としてとても
よい瞬間を多く作れたと思う。
- ・ ここ最近ずっと悩みだったことについて、トークセッションを通して、こうゆう考え
方をすればいいんだ！と新しい気づきがあったから。
- ・ トークセッションを通して色々な人の生き方がよくわかった。久しぶりに知ってる人
にもたくさん会えてうれしかった。
- ・ 室内でも、これらのコンテンツが集うとたくさんの人と交流できる機会が作れること
が分かったから。
- ・ インスタで見たことはあるけど初めましての方、久しぶりにお会いした方がたくさん
いたため。
- ・ 普段話す機会のない色んな人の話を聞けて参考になったから
- ・ 初めての経験で、人の前で自分のことについて話すことができたのも良かったと同時
に私がどうやって事業をやってきたのか頭の中で整理して、アウトプットすることも
できたから。
- ・ 活発で新鮮な体験談を引き出すことができたから。
- ・ 能動的に話すのではなく話しているのを聞く立場で参加できたので気が楽だった 時
間でプログラムが区切られ色々な意見を聞くことができるから。



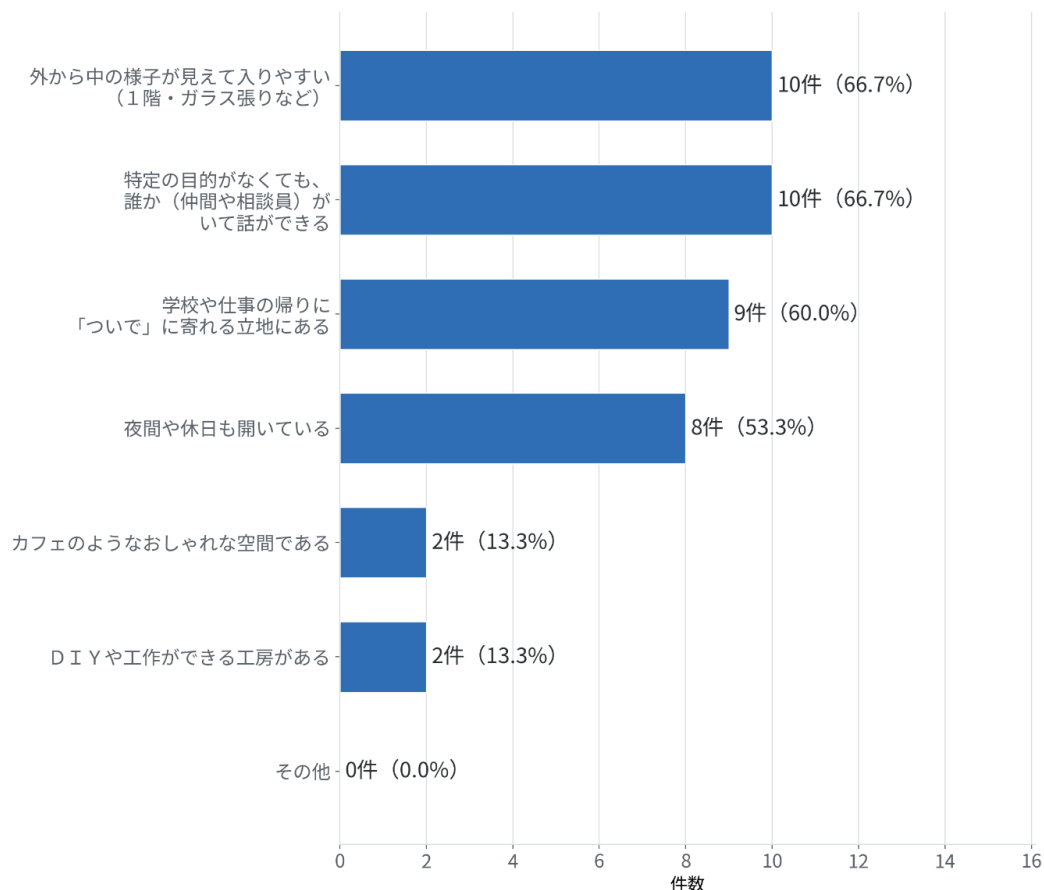
（その他の回答）

- ・ やっぱりこの仲間たちからの刺激は楽しいなと再認識できました。大きな変化ではない
ですが。

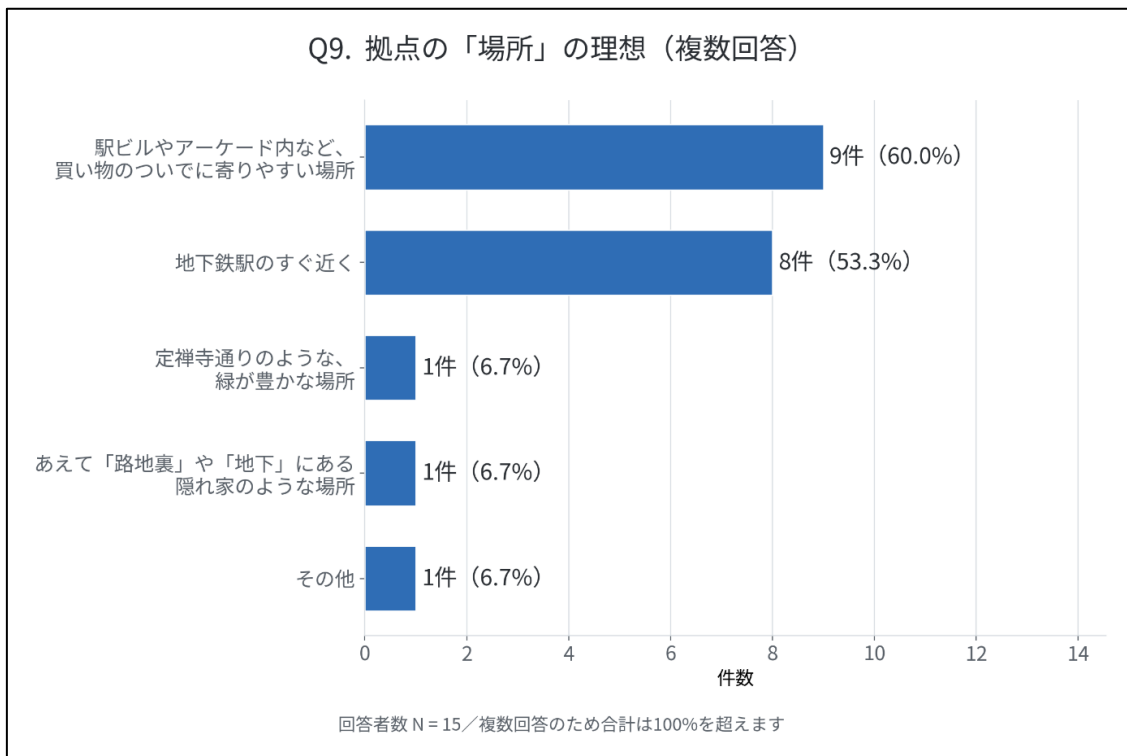
Q7. 本日の体験デーについての感想(記述)

- ・ 機会を実行まで移せたという手応えをかんじもっとよいものを作っていきたいの、かんじた
- ・ 仙台で活動している人たちを一方的には知っているが、中々お会いしてお話する機会がない方たちともこのような場で交流ができて良かった。
- ・ 全体的に良かった！トークセッションとフリートークスペースはある程度棲み分けできてたほうが良かったと思う。今回だとあれが限界だと思うが
- ・ 当日イベントを開催して終わりではなく、トークセッション後の登壇者の方に話しかけやすい環境だったため、新たな出会いや悩みの相談、次につながる交流の場が各所で生まれていて良かったと思う
- ・ 6階でやるということであらうと寄る感じの場所ではないが、交流を求める人を集めるという点では良いのではないかなと思った

Q8. 思わず立ち寄りたくなる拠点の条件（最大3つ）



回答者数 N = 15 / 複数回答のため合計は100%を超えます

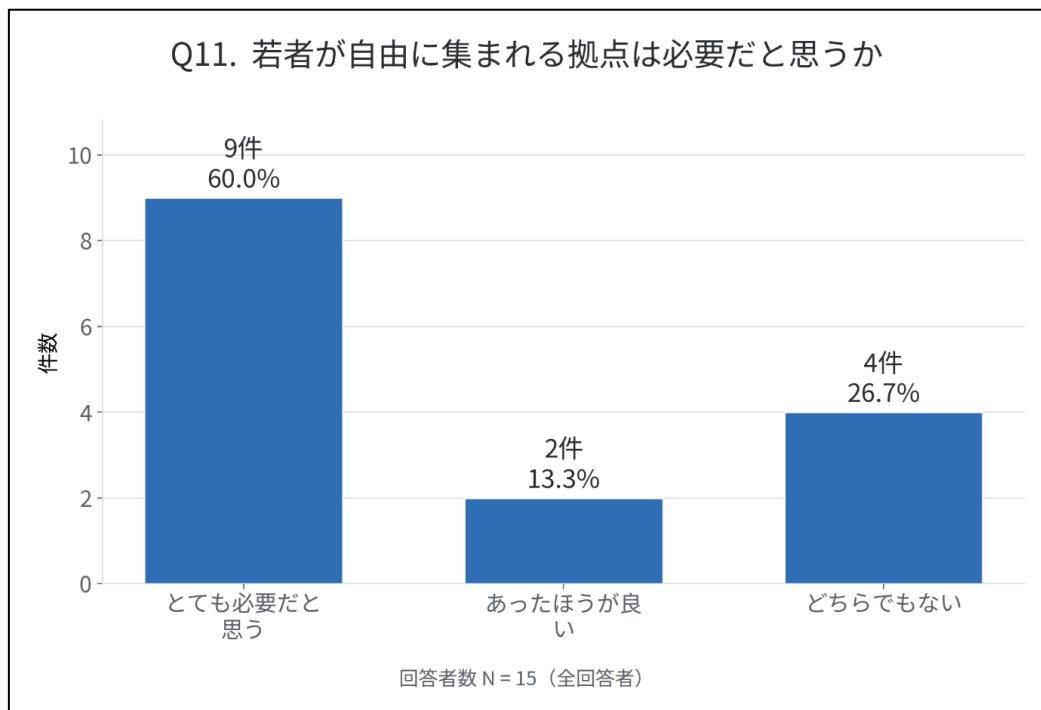


（その他の回答）

- ・ 飲食店などの近隣施設、駐車場スペース、公共交通のアクセス等においてターゲット層にフォーカスされた場所

Q10. もし新しい拠点ができたらどんな過ごし方をしたいか（記述）

- ・ 運営スタッフとしての手伝い（雑務など特に役職はないが誰かがやらなきゃいけない雑務等）
- ・ クリエイティブをほかの学生といっしょにやりたい！
- ・ コミュニケーター、拠点の運営、飲食サービスの提供
- ・ 小規模なイベント会場として空間デザインとか空間設計とかマルシェとかやりたいことの実践の場として利用しながら、そこに来てくれた人たちと交流して次の何かを生み出したい。また、社会人の交流の場がとても少ないので、地域のこれからのプレイヤーとして若手社会人の集いとかしたい。
- ・ 一緒に誰かと話しながら作業をしたい
- ・ 運営スタッフとして雑談や企画を考えられる場づくり
- ・ 自分で作った什器を設置したい
- ・ 雑談交じりの気軽なアイデア相談、自身の制作品の販売
- ・ 個人での作業、学校でも家でもないところで過ごしたい時に行く
- ・ パソコン作業
- ・ 今回の登壇者の方のように、それぞれの場で頑張っている人の話を聞きに行き、自分の生活や進路の参考にしたい
- ・ 他の人と話し合いたい
- ・ 運営スタッフとして関わりたい
- ・ 好きなものを提供しながら話せる場所
- ・ 誰かと話したい時に立ち寄って適当に話したい リラックスをするのなら家でできると考えるため



Q12. Q11 の理由（記述）

- ・ 若者の新たな視点や考え方などを活用することで新たな風を吹かせて今後の仙台や東北の発展の拠点を仙台から発信することで少しは気がついて動ける大人や若者が出で来れるようになるのではないかと考えているから。
- ・ 常設となると、イベントとは異なり、希少性が薄れ人が常にそこに現れるのか分からなかったから。
- ・ 大学がたくさんある一方で学校の垣根を越えた交流やほかの若者との交流を持つ機会があれば若者のちからで地域はもっと活性化すると考えているため
- ・ せっかく東北にいる、東北に来た、東北に残った若手を、東北から逃がさないために、東北で人間関係を作ったり何か変えれたというオーナーシップを持たせたりする場にしていきたい。また、まちづくりは余暇であるから、余裕のある大人がファンドをつくりそのお金をわかりやすく流す先として代表的なスポットとしたい。
- ・ 若者の交流は同じ大学やサークル、団体など、特定のグループの中の交流だけになりがちだが、日常的に色んな人が集まれるスペースがあると、なにかしたいけど行動できない人とかは特に応援してくれる人や味方、仲間を見つけることが出来やすくなりそうだから。
- ・ 現在でもさかんではあるが固定された場所があることによるメリットは多くあるはずだから
- ・ まちづくりに関わる以前に、そういう若者が集まる場所がないから
- ・ 「何かしたい。けど何したらいいかわからない。」という方々への入り口ののひとつになり得るため。そして、そのように動き出した人々がいつでも初心に帰れる、気軽に相談に来れるアフターフォローの場所は必要だと感じる。一步踏み出させてはいご自由に、はあまりに無責任だと感じるため、アフターフォローの側面は非常に重視している。
- ・ 活気は生まれるかもしれないが、集まる学生がだんだん1つのコミュニティになって身内化してしまうと意味がないと思うから。
- ・ 東北地方の主要都市で人が来やすい場所のため
- ・ 今回のように定期的にイベントがあれば、拠点は常設ではなくてもいいのではないかなと思った。試行錯誤して会場を作り上げるのは大変だったが、次に活かせることも多いため、毎回違う雰囲気の間場づくりをしても面白いのではないかなと思う。
- ・ 若者は東京に就職しに行ってるから
- ・ 娯楽を求め宮城県外に行く若者が多いから。
- ・ 何からすればいいかわからない学生がいる。
- ・ 集まれる場所があれば良いとは思いますが、結局最初に入った人がその場所の雰囲気を作ると思うのである一定の人たちの集まりになるのでは？という気もする 若者が集まって例えば人脈を広げたいということなら今日のような集まる機会をつくれば良いのではないかと考えたため 自由に集まれる場所自体は公園や大学内、カフェやファミレスなどハードルが高いがあるとは思う

Q13. 仙台のまちづくりやこれからの拠点づくりに向けて一言

- ・ 宮城県民としてやれることは何でもお手伝い致します！全ては東北の復興・発展のために！
- ・ 改めましてこの度は、このようなイベントを開いていただきありがとうございます。めちゃくちゃ楽しい会で、私も芸術家として書道をやらせてもらえたり、登壇させてもらえたりと身に成りすぎる会でした。常設のところができればぜひ伺います！
- ・ 今回のような企画や事業をたくさん実践して若年層の活気があるまちにしたい！できれば企画を行いやすい環境も整えていただき、そのうえでマチツカイにもっと企画や事業を行う機会を下さい！
- ・ 企画から実施まで1ヶ月ほどの短い期間でしたが、たくさんの人の協力のおかげで、さびしいどころかとても賑やかな1日にすることができました！これを常設するわけにはいきませんが、今回のような、若者同士の交流や市との協働、挑戦の場としての役割を、開けた場所が担っていけるといいのかなと思いました。第2回もやりたいです！今度はもっとレイヤー高い人を呼んで！企画準備運営、一緒に走り切れてたのしかったです！ありがとうございました！！
- ・ 今回このような場をたくさんの時間をかけて、かつ、他の業務があるなかで準備してくださりありがとうございました。本当に本当に、声を上げていないだけで、こういう場を求めている人は数多いと思うので、日常的な拠点が実現されると、もっと仙台や宮城でまちづくりに取り組みたい学生が増えるのではないかと思います！楽しみにしています^^
- ・ 様々な取り組みができていくとより良いのではないかと考える。
- ・ 拠点作りの実現、ぜひよろしくお願いします！！
- ・ ボードゲームのプロフェッショナルとして！ボドゲの制作、体験会即売会、ワークショップ、公演、制作体験 etc... なんだってできますので、ぜひぜひ気軽にご一報ください！！今後益々のご発展、心よりお祈り申し上げますと共に、尽力させていただきます！！
- ・ 楽しかったです！
- ・ 何かやりたいことや関心事があってもどうすればいいかわからない人が多いと思うため、まずふらっと人と出会いつながれる場が設けられていることの重要性がわかりました
- ・ 仙台好きなので、引き続きこういった活動頑張ってください
- ・ ありがとうございました！これからもよろしくお願いします！
- ・ 難しい課題で答えが変化するテーマだと思います より良い街を目指して頑張ってください 応援してます

(3) 若者まちづくり交流拠点体験デー 企画・運営参加者からの意見

①イベント全体・会場レイアウト

- 学生も社会人も、多様な属性・世代の参加者が集まり、就職、まちづくり、起業、地域活動など様々なテーマで交流が生まれた。
- 友人・知人同士だけでなく、本イベントで出会った人同士で新たなつながりも生まれた。
- 広報先が知人中心になっていたため、初めてこうした場に来る層へのアプローチは弱かった。イベント自体の魅力で集客するには工夫が必要。
- 「交流したい人」と「まずは様子を見たい人」の両方が存在しており、参加の関心度合いに合わせた受け皿を複数用意する必要があった。
- 高低差のあるステージ構成は視認性が高く、イベント感を演出できた。
- 観覧席の中央に通路を設けたことで、トークセッションを座って聞く人が増えた。
- レイアウトを現場で調整できる「仮設拠点」の強みが確認できた。
- 地図企画（付箋に記入し貼ってもらう）は、何をすれば良いかが伝わっていなかった。

②体験スペース等参加者同士の交流

- 参加者同士の雑談や交流は活発で、登壇者と参加者の会話も多く見られた。
- OTH（ワークショップにおけるファシリテーター業務受託団体）インターン生の仕掛けをきっかけに交流が生まれた。
- 就活相談や進路相談など、まちづくり以外の情報交換も行われていた。
- 本を読む人もいた。
- トークセッションを聞く場所は「何もしなくても居て良い場所」になっていた。
- 交流拠点の価値は「まちづくりの情報収集だけでなく、生き方や人生の情報収集ができること」にもあったのではないかと。
- 一人でいる参加者には積極的に声を掛け、参加者が孤立しないように意識した。
- 就活の相談、仕事の話など、まちづくり以外の話題も自然に行われていた。
- トークセッション間の休憩時間が短く（5分間のみ）、参加者が登壇者に話しかける時間が不足
- 登壇者（キラキラした活動をしている人）に話かけて良いのか分からず、声を掛けにくかった。初参加者にはハードルが高い
- 勉強やPC作業をする人はいなかった（静かな空間ではない・集中空間がない）
- 本コーナーの存在が分かりづらかった。利用方法の説明が不足していた。

③コミュニケーターとの交流

- （市民活動サポートセンターの）センター長が積極的に参加者同士をつないでくれた。「若者の活躍の場を広げたい」という思いを感じた。
- 来場者とコミュニケーターとで進路相談や活動相談が行われていた。
- 誰がコミュニケーターなのか、話しかけていいのか、どこにいるのか分かりづらかった。

④トークセッション

- 大学生・大学院生・社会人問わず、仙台の様々な分野で活動する多様なプレイヤーを紹介できた。
- 聞くだけでも学びになる場であり、聞くだけの参加も可能な気軽な場になっていた。
- MC の存在により進行が安定した。
- まちづくり活動に興味を持ってもらうことはできるけれど、実際に行動する人を生み出すのは難しいと感じた。
- 活動の凄さばかりが伝わってしまうことで登壇者が遠い存在に見えてしまい、「特別な人だからできた」と受け取った参加者もいた。

⑤理想の交流拠点を考えるワークショップ

- 当日のキャンセルが多かった。
- 問いが抽象的で「まちづくり」という言葉が広すぎたため、参加者が考えにくかった。
- 「拠点があったらいいな」という想像で終わった。
- 実際に主体となる人を生み出すには、体験型要素が必要。

⑥その他

- 常設拠点は運営コストが高く、日常的な集客が課題となる。今回も単発イベントだからこそ人が集まったと考えられる。
- 「交流拠点」のあり方として、常設かイベントかの二択ではなく、イベントで人を集め、その後常設利用につなげる流れを作り、利用者が「ここは自分の居場所である」と思えることが鍵になると考える。